

第2期八戸市美術館中期運営計画

(令和7年度～令和11年度)

令和7年3月



八戸市美術館
Hachinohe Art Museum

目 次

【1】中期運営計画策定の趣旨	· · · · ·	P 2
1 ビジョン		
2 計画推進イメージ		
【2】計画期間	· · · · ·	P 3
【3】第1期中期運営計画期間の主な成果と課題	· · · · ·	P 4
【4】今期の目標およびミッション	· · · · ·	P 6
1 今期目標		
2 今期のミッション		
【5】取組内容と取組方針	· · · · ·	P 7
【6】施設の管理運営	· · · · ·	P 11
1 管理運営体制など		
2 財務的経営と収支		
3 施設管理		
【7】ロジックモデルを活用した評価の実施	· · · · ·	P 13
1 事業評価の手法		
2 セオリー評価		
3 アウトプット評価とアウトカム評価		
4 事業評価体制		
【8】SDGsへの取組	· · · · ·	P 17

【1】中期運営計画策定の趣旨

八戸市美術館は、施設の老朽化や機能の不足などを理由に平成29年4月に閉館した旧八戸市美術館を前身とした美術館であり、令和3年11月3日にリニューアルオープンしました。当館の整備および管理運営にあたっては、平成28年9月に「八戸市新美術館整備基本構想」を、平成31年1月に「八戸市新美術館管理運営基本計画」を、令和2年3月に開館から令和6年度までを計画期間とする「八戸市新美術館中期運営計画」を策定しました。

当市では、令和4年3月に策定した「第7次八戸市総合計画」において、将来の都市像として「ひと・産業・文化が輝く北の創造都市」を掲げ、市民・事業者・行政が創造性を発揮し協働することで、新たな産業や文化、そして新たな価値を創りあげる都市づくりに挑戦しており、当館は、この上位計画において、文化芸術の創造性を活かした「アートのまちづくり」を具現化するための中核施設として位置づけられています。

また、「はちのへ文化のまちづくりプラン」（令和4年～令和8年）や「第4次中心市街地活性化基本計画」（令和6年～令和11年）、さらに現在策定中の「八戸市観光振興プラン」（令和7年～令和11年）などの関連計画において、当館には各計画の目標達成に向けた重要な役割が期待されています。

国際的・国内的な動向としては、令和4年の国際博物館会議（ICOM）において博物館の定義更新が行われ、包摂性・アクセシビリティ・持続可能性・コミュニティへの参加などを重視する内容となりました。また、令和4年の博物館法改正により、従来の社会教育法に加え、文化芸術基本法の理念に基づいた取組が求められるようになり、文化芸術の振興にとどまらず、資料のデジタル・アーカイブ化や他の博物館などとの連携、さらには地域の多様な主体との連携・協力による文化観光の推進などが努力義務として位置づけられ、地域の活力向上への貢献が期待されています。

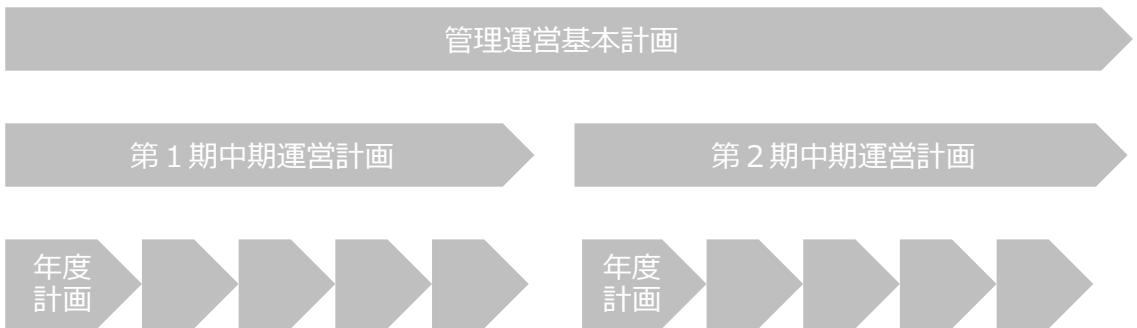
このような美術館を取り巻く環境の大きな変化を踏まえ、当館には八戸ならではの文化資源を最大限に活用し、市民生活や地域文化に新たな価値を創出することが求められています。

本計画は、「八戸市新美術館整備基本構想」および「八戸市新美術館管理運営基本計画」を基に、市の総合計画や各施策のほか、第1期中期運営計画期間における事業成果を踏まえ、10年後の姿を見据えた事業展開と運営方針を示すとともに、当館のビジョンを具現化し、市民に愛される八戸らしい美術館の実現を目指して策定しています。

1 ビジョン

種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館
～出会いと学びのアートファーム～

2 計画推進イメージ



【2】計画期間

事業の継続性を担保しつつも、急激な社会環境の変化にも対応可能な美術館運営を図れるよう、計画期間は下記の期間とします。

計画期間 : 令和7年度～令和11年度

【3】第1期中期運営計画期間の主な成果と課題

（1）魅力的な展覧会やプロジェクトの実施

①成果

多様なアプローチによる新たな視点の展覧会や、アートの楽しさを体感できるプロジェクトに取り組んだ結果、観覧者から高い満足度を得ることができました。

②課題

まだ来館したことのない市民も多くいるため、今後は多様なジャンルの展覧会の開催に加え、アート以外の分野との連携を深めるとともに、ジャイアントルームの機能を活かした事業を展開することで、作品鑑賞の幅を広げ、観覧者の満足度をさらに向上させるとともに、美術に関心のない層へのアプローチを強化していく必要があります。

（2）プロジェクトの常設展示・コレクション化の取組

①成果

「もの」や「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として、当館ならではのユニークなプロジェクトを構想・実施し、着実に実績を積み重ねてきました。

②課題

一過性のプロジェクトに対する市民の理解を深めるため、人の活動が見えにくいプロジェクトで制作された「もの」や「こと」を、写真や映像などを通して再演・再現するアーカイブの整備や、アーティストが関与して生み出した作品のコレクション化に取り組む必要があります。

（3）学校連携事業さらなる推進

①成果

「学校連携プロジェクトチーム」の発足により、学校教員と美術館スタッフのつながりが確立し、授業における美術館の活用が進んだほか、鑑賞プログラムの研修会を実施する学校が登場し始めました。

②課題

学校連携ラボの利活用の促進を進めながら、児童・生徒が美術館を訪れ、作品や活動に触れる機会を増やすためのアプローチを積極的に進めていく必要があります。

(4) 大学・高専連携事業のさらなる推進

①成果

美術館の専門性と大学・高専が持つ専門性を活かした多様なワークショップにおいて、参加者が創作活動を通して創造力が養われるなど、アートの価値観や多様性の理解につながったほか、「託児サービス」の実施により、子育て世代が気軽に来館できる機会を提供するとともに、学生にとって実践的な学びの場を創造し、当館のアクセシビリティの向上にもつながりました。

②課題

大学や高専の専門性と美術館のアートの専門性を融合させた「アートの学び」を通して、人材育成や地域経済の活性化につなげるほか、子育て世代を含む多様な来館者のアクセシビリティ向上に向けた事業の充実を図る必要があります。

(5) アートファーマーや共創パートナーを中心とした、市民による多様な芸術文化活動創出に向けた仕組みの構築

①成果

アートファーマープロジェクトでは、活動環境の整備やアーティストとの創作活動などを進めることで、多様な参加者が集まり、世代を超えたつながりが生まれるとともに、当館を活用した自己表現の場が広がりつつあります。また、共創パートナーと連携した共創企画の実施は、「アートのまちづくり」の推進につながりました。

②課題

参加するアートファーマーの固定化や自主的な活動への発展が十分でない、共創企画を行う共創パートナーが限られているといった課題も見られました。今後は、より多様な人々や団体の参加を促進するほか、アートファーマーが自ら企画・発信できる仕組みの整備や、新たな共創パートナーとの連携を図る必要があります。

(6) 戦略的な広報

①成果

市広報誌や新聞、チラシ・ポスターの配布、HP や SNS の活用などを通じて積極的に当館の活動を発信した結果、ウェブアクセス数や SNS フォロワー数が増え、当館の認知度向上が図られました。

②課題

展覧会やプロジェクトの開催周知、アートファーマーや共創パートナーの募集などにあたっては周知不足の面があったことから、今後は、広報手段、ターゲット、時期、内容など、広報計画を立て、効率的かつ効果的な情報発信に取り組む必要があります。

【4】今期の目標およびミッション

当館が掲げるビジョンを達成するために何を行るべきかの目標を明確にするため、今期の目標およびミッションを次のとおり設定します。

1 今期目標

- ・地域文化が次世代へ継承・発展する
- ・クリエイティブな人がふえる
- ・地域の社会的包摂を推進する

2 今期のミッション

今期の目標を踏まえて達成すべきミッションは次の通りとします。

(1) 地域の文化芸術を受け継ぎ、新たな文化芸術活動が生まれる環境をつくる

郷土ゆかりの作品の収蔵や地域資源を活かした展覧会やプロジェクトの開催を通して、郷土独自の文化芸術に触れる機会を創出し、地域への愛着や誇りを育み、次世代へ継承する場をつくります。さらに、地元アーティストに焦点を当てた展覧会の開催や地域の文化芸術活動の支援などを通して、地域に根差した文化芸術が育まれる環境をつくります。

(2) 人々がアートに触れ、創造力を育める環境をつくる

誰もが創造性を發揮し、自由に表現できる社会を実現するため、展覧会やプロジェクト、教育機関との連携による事業などを通して、子どもから高齢者まで幅広い世代がアートに触れ、学び、創造力を育める環境を提供します。さらに、クリエイティブな人やアートに関わる人を増やし、社会全体の文化的な豊かさを育んでいきます。

(3) 多様な人々が交流し、新たな創造が生まれる場をつくる

アートを見る人、創作活動を楽しむ人、美術館の事業に関わるアートファーマーや共創パートナー、アーティストなど、多様な人々が交流することで、お互いの考え方や価値観を認め合い、新たな発見や創造が生まれる場をつくります。市民や団体、教育機関、企業との共創企画の実施や、誰もが参加しやすい環境を整えることで、地域コミュニティの活性化や人々が主体的にアート活動に関われる土壌を築きます。

(4) 「八戸ならでは」の特色を活かした地域活性化の仕組みをつくる

「アートのまちづくり」の中核施設として、郷土の歴史や風土に根ざした文化資源を掘り起こし、「八戸ならでは」の魅力を国内外に発信します。さらに、観光、教育、まちづくり、福祉や国際交流など多様な分野と連携し、政策間の相乗効果を高めることで、地域課題の解決や地域社会の発展に貢献する仕組みをつくります。

【5】取組内容と取組方針

第1期中期運営計画期間の成果と課題を踏まえ、今期のミッションを達成するため、本計画期間中に取り組む内容および取組方針は次のとおりとします。

1 展覧会+プロジェクト

- ・収蔵品をより深く味わうコレクション展をはじめ、国内巡回展や他美術館との連携企画など、多様なジャンルの展覧会の開催、音楽や食文化などアート以外の分野との連携、当館独自のジャイアントルームの機能を活かしたプロジェクトを通して作品鑑賞・創造の幅を広げることで、観覧者のさらなる満足度向上や、美術に関心がない層へのアプローチを図ります。
- ・プロジェクトで生み出された「もの」や「こと」を、写真や映像によるアーカイブ化や作品のコレクション化を行い、記録・保存するとともに、展示にも活用していきます。

■目標値

展覧会開催数 年3回程度

コレクションラボ開催数 年3回程度

2 調査・研究

- ・八戸および近隣地域の芸術文化を継承していくという観点から、地域にゆかりのある作家や作品、その理解につながる関連資料などの歴史的・社会的背景を整理し、調査・研究を行います。調査・研究活動の成果は、展覧会やコレクションラボの企画への反映、年報や図録の発行などを通して発表します。また、国内外の美術動向、展覧会などの情報収集を行い、当館が実施する事業の充実を図ります。

■目標値

図録発行数 自主企画の展覧会ごとに1回

3 コレクション（作品収集・保存管理）

- ・「八戸市美術館美術品等収集方針」に基づき、八戸および近隣地域ゆかりの作品や、新たな表現を有する作品を収集・保存するほか、収蔵品については定期的な点検や必要に応じた作品修復などを行い、収蔵品目録を作成して適切に管理します。
- ・収蔵品のデジタル・アーカイブの作成と公開に取り組みます。

■目標値

八戸市美術館美術品等収集委員会開催数 年度ごとの計画による

新規収蔵品収集数 年度ごとの計画による

収蔵品修復数 年度ごとの計画による

収蔵品目録作成数 年度ごとの計画による

デジタル・アーカイブ公開数 隨時

4 アートファーマープロジェクト

- ・美術館の企画や運営に能動的に関わる市民スタッフ「アートファーマー」と美術館スタッフが一緒になり、美術館での学びを活かして、アーティストとの共同創作事業や来館者へのガイドなど、美術館と人、作品と人、人と人をつなぐ様々な取組を展開します。
- ・アートファーマーの活動の場を広げるため、自主的に企画・発信できる仕組みの構築に取り組みます。
- ・新規アートファーマープロジェクトの立ち上げや広報方法の工夫により、多様な人々の参加の促進に取り組みます。
- ・高齢者や障がい者、子育て世代や外国人など、誰もが気軽に美術館に来館できる機会を創出するため、アクセシビリティの向上に取り組みます。
(手話通訳付きガイドツアー、英語ツアーなど)

■目標値

アートファーマープロジェクト数 年5件程度

アートファーマー参加者数 年のべ100人以上

ガイドツアー数（手話通訳、英語通訳） 自主企画の展覧会ごとに1回以上

（手話通訳または英語通訳のいずれか）

5 学校連携事業

- ・小・中・高校の教員、美術館のスタッフ、専門家による「学校連携プロジェクトチーム」が、子どもたちの力を伸ばして自ら新しい価値をつくり出せる人を育むために、館内の学校連携ラボを事業拠点に、学校現場で活用できるプログラムやツールの開発など、新しい美術教育のあり方を考えて実践します。
- ・出張授業、学校へのアーティスト派遣、朝鑑賞の推進などを行い、子どもたちの文化芸術の鑑賞や学びの機会の充実を図ります。
- ・学校団体見学の受け入れや各学校への広報を継続して、子どもたちの来館機会を増やし、アート作品や文化芸術に触れることができる機会を創出します。

■目標値

学校連携プロジェクトチーム事業数 年3回程度

学校連携数 年5校程度

学校団体見学受入数 年25校程度

6 大学・高専連携事業

- ・大学・高専が有する専門性と美術館の専門性を活用し、アートの力を異業種・異分野と融合させて新しい価値や事業を生み出す取組を推進します。
- ・社会人や学生が美術館での体験・経験を社会で実践できるよう、多様な人々が一緒に交流する機会やアートを通した学びの場を提供します。

■目標値

教育機関連携数 年3校

アートの学び事業プログラム数 年10回程度

7 共創パートナーとの連携

- ・市民や団体、教育機関、企業など、美術館事業を一緒に行う共創パートナーと連携して地域の新しい価値を生み出す取組を行います。

■目標値

共創パートナー数 現状より増

共創企画数 年1件以上

8 貸館事業

- ・市民をはじめ多くの人々が文化芸術活動の発表の場として利用できるよう、展示やワークショップ、発表会など、多様な用途に対応できる環境を整備し、利用者のニーズに応じた円滑な運営を行います。

■目標値

一般貸館数 年100件以上

9 賑わい創出事業

- ・中心市街地の活性化のほか、美術館になじみのない人々の来館を促すため、館内や広場を活用して、親子向けイベントや音楽ライブ、キッチンカーの出店などを行います。
- ・八戸ポータルミュージアムや八戸ブックセンターなど、近隣の文化観光施設などと連携し、中心市街地の回遊性向上など周辺の活性化に取り組みます。

■目標値

イベント開催数 年5回以上

10 ジャイアントルームの活用

- ・誰でも自由に利用できるジャイアントルームでは、作品展示にとどまらず、ワークショップや体験型プログラム、イベントなどを開催し、アーティストとの触れ合いや多様な人々の交流を通して、新たな発見や創造が生まれる場をつくります。

■目標値

入館者数 R11年度 121,400人

※八戸市中心市街地活性化基本計画（R6年4月）に基づく

イベント、ワークショップなどの開催数 年度ごとの計画による

11 広報・情報発信

- ・チラシ・ポスターなど新聞に加え、ウェブサイトやソーシャルメディア（SNS）など、多様な情報媒体を活用し、わかりやすい情報発信に取り組みます。
- ・市長記者会見や市広報誌、マスメディアへの情報提供を通して、当館の事業を広く積極的に発信します。

■目標値

年報発行数	年 1 回
ウェブアクセス数	年 160,000 回以上
SNS フォロワー数	X (旧 TWITTER) R11 年度 4,500 人
	Facebook R11 年度 1,700 人
	YouTube R11 年度 250 人
	インスタグラム R11 年度 5,000 人

12 学芸員・職員の人材養成・研修

- ・学芸員や職員の専門性向上を目指し、展示企画や作品管理、地域連携などに関する研修を計画的に実施します。

■目標値

研修参加数 年度ごとに計画し参加する

13 広域連携

- ・「青森アートミュージアム 5館連携協議会」への参画を継続し、企画展・巡回展など展覧会における連携や共同でのプロジェクトなど、青森のアートの魅力を国内外に発信し、集客と県内の回遊性の向上を図ります。

■目標値

協議会による情報発信 現状維持

14 博物館実習、インターンシップ、職場体験などの受入

- ・博物館実習生やインターンシップ、職場体験などを積極的に受け入れ、将来の美術館業界を担う人材に実務経験と学びの機会を提供し、人材育成に貢献します。

■目標値

博物館実習生受入回数 年 1 回

インターンシップ、職場体験など受入回数 年 5 回程度

【6】施設の管理運営

1 管理運営体制など

(1) 管理運営体制

館長および副館長を中心とした管理部門が事業方針の決定や進捗管理を担い、専門的職員としての学芸員がその方針に基づいて企画を立案するほか、映像・音響などを行うテクニカルコーディネーターや学校連携・地域連携を行うコーディネーターが事業をサポートします。また、施設管理全般を担う事務系・技術系スタッフを含めた管理運営体制により、安定した施設運営を行います。

(2) 外部委託による効率化とサービス向上

一部業務を外部委託することで経費削減を図るとともに、専門業者のノウハウを活かして、業務の効率化や来館者へのサービス向上につなげます。

(3) 多様な主体との連携とスタッフ育成

当館ならではの事業を展開するため、多様な主体と連携した取組が必要不可欠であり、スタッフには教育、福祉、経済など幅広い分野の知見や、共創パートナーとの協働に必要なコミュニケーション力や調整力が求められることから、スタッフが新たなスキルや知識を習得できるよう、研究や研修のための時間や予算を確保します。

(4) フレキシブルなチーム編成

展覧会やプロジェクトの企画運営にあたっては、スタッフの経験や能力を活かして、事業目的に応じて柔軟にチーム編成を行います。

(5) 運営改善の仕組み

当館の運営に助言を行う運営協議会や、美術作品および関連資料の収集に関して提言・承認を行う美術品等収集委員会を設置し、より良い美術館運営に反映させます。

2 財務的経営と収支

八戸の未来を形づくるための投資であるとの観点から、美術館が行うべき事業に対し、十分な予算を確保するよう努めます。また、展覧会観覧料や収益事業をはじめとする事業収入、さらに施設利用促進による施設利用収入の増加、ふるさと寄附金のPR強化にも注力し、財源確保に向けた取組を進めます。また、運営管理や委託業務の合理化、省エネの推進により、運営経費の削減に努めるほか、国・県・財団法人からの補助金を積極的に活用します。

3 施設管理

(1) 利用者が安心して快適に過ごせる環境整備

来館者が安心して快適に利用できるよう、多種多様な事業に対応可能な美術館を目指します。そのために、施設や案内表示の点検・改善を含め、適切な保守点検や維持管理を徹底します。

(2) 貴重な収蔵品の保護と適切な環境維持

展示室や収蔵庫の温湿度を徹底管理するほか、文化財害虫や空気環境の調査を実施します。また、特別清掃の頻度を増やすなど虫菌害対策を強化し、八戸市民が誇る貴重な収蔵品を適切に保管します。

(3) 来館者の声を活かした館運営

来館者アンケート調査を通して、当館へのニーズを把握します。その結果を館運営に反映させ、利用者満足度を高めることで、来館者に「来てよかったです、また来たい」と思っていただける運営を目指します。

【7】ロジックモデルを活用した評価の実施

1 事業評価の手法

当館の事業評価においては、単に入館者数や収支バランスの向上といった一般的な指標だけでなく、市民や地域の方々にアートを通してどのような機会を提供できたのか、また地域にどのような価値を創出できたのかを重視し、事業を通して地域に果たすべき役割をどの程度達成できたのかを評価します。

そのため、**事業の目的や成果との因果関係を明確にし、目標達成のプロセスを可視化する「ロジックモデル」**を活用したセオリー評価、アウトプット評価、アウトカム評価を実施します。この手法により、投入した人員・予算・設備（インプット）を活用して行われた事業（アクティビティ）が、どのような成果（アウトプット・アウトカム）を生み出したのかを体系的に分析し、評価します。

2 セオリー評価

評価分析にあたって各取組の内容と成果の関係性を可視化・検証するためのツールとして「ロジックモデル」を作成し、各取組のアウトプットやアウトカムを整理します。

第2期八戸市美術館中期運営計画におけるロジックモデル（案）



※ロジックモデルは事業の進捗や状況変化によって見直すことがあります。

3 アウトプット評価とアウトカム評価

事業の実績（アウトプット）や成果（アウトカム）を適切に測定するため、事業活動の実施状況を示すアウトプット指標と、事業がもたらした変化を示すアウトカム指標を設定します。これらの指標に基づき、アウトプットおよびアウトカムに関する定量的・定性的データを収集・分析し、美術館の活動成果を総合的に評価していきます。

（1）評価指標の種類

アウトプットに関するデータ	美術館の活動量を測定するデータ ・美術館の活動を通年で記録、集計した数値データ
アウトカムに関するデータ (定量的)	美術館の活動がもたらした変化・影響を数値化したデータ ・美術館が保有する数値的データ ・アンケート調査結果（度数、頻度など）
アウトカムに関するデータ (定性的)	美術館の活動が個人・社会に与えた質的な影響を示すデータ ・アンケート調査（自由記述） ・来館者やプログラム参加者などの声 (感想、意見、エピソードなど) ・インタビュー（個別・グループ）、観察記録など ・来館者などからの意見や要望の記録（日時・内容など） ・アートプロジェクトや展覧会中の出来事（エピソード、写真や動画など）

（2）アウトプットに関する評価指標

当館の活動成果を評価する指標は下表の通りです。

活動内容	アウトプット
展覧会+プロジェクト	展覧会開催数、コレクションラボ開催数、プロジェクト開催数、展覧会関連イベント開催数、展覧会観覧者数、プロジェクト参加者数、イベント参加者数など
調査・研究	図録発行数など
コレクション (作品収集・保存管理)	八戸市美術館美術品等収集委員会開催数、新規収蔵品収集数、収蔵品修復数、デジタル・アーカイブ公開数など

アートファーマープロジェクト	アートファーマー登録者数、アートファーマーのべ参加者数、アートファーマープロジェクト数、イベント参加者数など
学校連携事業	学校連携プロジェクトチーム活動数、学校連携プロジェクトチームメンバー数、学校連携数、プロジェクト参加者数、学校団体見学受入数など
大学・高専連携事業	教育機関連携数、アートの学び事業プログラム数、プログラム参加者数など
共創パートナーとの連携	共創パートナー数、共創企画数、市民や団体との連携数など
貸館事業	一般貸館数など
賑わい創出事業	イベント開催数、イベント参加者数など
ジャイアントルームの活用	入館者数、プロジェクト開催数、イベント開催数など
広報・情報発信	年報発行数、ウェブアクセス数、SNSフォロワー数、メディアなど露出回数など
学芸員・職員の人材養成・研修	研修参加回数、研修参加者数など
広域連携	青森アートミュージアム5館連携協議会による情報発信数など
博物館実習、インターンシップ、職場体験などの受入	博物館実習生受入回数、インターンシップ・職場体験など受入回数など

(3) アウトカムに関する評価指標

ロジックモデル案で設定した直接アウトカム、中間アウトカム、社会的インパクト（最終アウトカム）について、定量的・定性的データを組み合わせて評価を行います。

定量的データは、美術館が保有する数値データや、度数・頻度などを測定できるアンケート調査結果を活用します。定性的データは、アンケートの自由記述、来館者や参加者の感想・意見・エピソード、個別・グループインタビュー、観察記録や来館者などからの意見・要望の記録を収集するとともに、必要に応じて写真や動画を活用し、多角的に分析します。

当館ではこれまで、来館者や展覧会観覧者、プロジェクト・イベント参加者を対象にアンケート調査を実施してきましたが、アウトカムをより客観的に評価するため、可能な限り数値化できる設問へ見直すほか、評価の精度向上のため、より適切なデータの収集・活用方法を検討し、継続的な改善に努めます。

なお、中間アウトカムや社会的インパクト（最終アウトカム）の発現には長期間を要するため、本計画における中間評価の結果を定点観測や目標値として活用します。これにより進捗を適切に把握し、必要に応じて軌道修正を行うことで、美術館事業の実効性を高め、目標達成に向けた推進を図ります。

4 事業評価体制

当館の事業評価は、毎年実施する年度評価と、計画期間最終年度に実施する中期評価により行います。年度評価では、中期運営計画の目標達成に向けて実施すべき事業や運営が適切に行われたかをアウトプットで評価します。事業年度の途中には、スタッフによる事業プロセスに関するワークショップを実施し、計画に沿った進行ができているかを確認するとともに、必要に応じて軌道修正を行い、環境の変化に柔軟に対応します。一方で、中期評価では、計画期間内に実施した事業がどのような影響を与えたかをアウトカムの観点から評価し、当館の方向性や事業展開のあり方について検討し、次期の中期運営計画の策定に反映させます。

年度評価および中期評価にあたっては、セオリー評価、アウトプット評価、アウトカム評価による自己評価を行うとともに、有識者などで構成される運営協議会において、評価結果に対する専門的な意見を受け、当館の運営および事業に反映させます。

なお、事業評価は次の流れにて実施します。

(1) 年度評価の流れ（毎年度）

4～5月	前年度実施事業の実績整理（各種統計収集、アンケート集計などの評価指標）
6月	評価指標を元にした美術館内部による年度評価の作成
7～9月	プロセス改善ワークショップ（進捗確認、課題発見、改善検討）
10月	第1回運営協議会を開催（評価に対する意見、事業に関するフリートーク）
10月	翌年度の年度計画策定 翌年度予算の資料作成
3～4月	第2回運営協議会を開催（前年度事業報告、翌年度事業計画）

※状況により開催時期や回数の変更があります。

(2) 中期評価の流れ（計画期間最終年度（令和11年度））

4～6月	前年度実施事業の実績整理（各種統計収集、アンケート集計などの評価指標） 評価指標を元にした美術館内部による年度評価の作成 中期運営計画期間（令和7年度～10年度）の事業評価の集計・とりまとめ 中期運営計画期間の各年度の事業評価を元にした中期評価の作成
7～8月	第1回運営協議会を開催（評価に対する意見）
9月	次期中期運営計画案および翌年度の年度計画案策定
10月	翌年度予算の資料作成
3月	第2回運営協議会を開催（次期中期運営計画の承認）

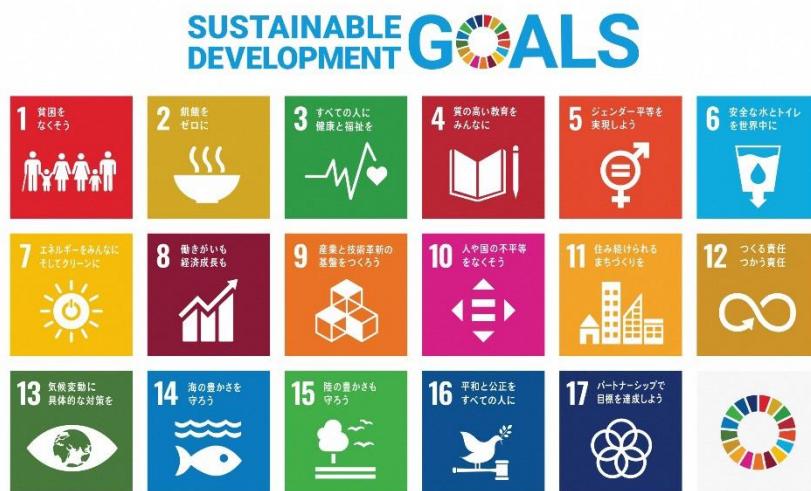
※令和11年度に実施した事業については、令和12年度に事業評価を行い、計画期間全体の中期評価報告書としてとりまとめます。

※状況により開催時期や回数の変更があります。

【8】SDGsへの取組

持続可能な開発目標（SDGs）は、先進国、開発途上国を問わず、世界全体の経済、社会、環境という3つの側面を調和させ、誰一人取り残すことなく、持続可能な世界を実現するための取組であり、17の目標と169のターゲットから成る国際社会全体の普遍的な目標となるものです。我が国においても、誰一人取り残されない、持続可能な社会の実現を目指しています。

当館の事業にあたっては、単なる芸術の場としてだけではなく、SDGsの視点を持ち、市民や環境とのつながりを大切にしながら、様々な取組を通して、持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。



【具体的な取組】



1 貧困をなくそう

- ・高校生以下の無料化や高齢者、障がい者、団体に対する観覧料の割引制度による美術館の利用促進



10 人や国の不平等をなくそう

- ・障がい者が利用しやすい施設運営やプログラムの提供
- ・英語版リーフレットの制作や英語ツアーの実施



2 飢餓をゼロに

- ・食をテーマにしたアート展示を通して食の大切さを啓発（今後検討）



11 住み続けられるまちづくりを

- ・「アートのまちづくり」の推進による地域振興



3 すべての人に健康と福祉を

- ・誰でも自由に無料で利用できる休憩スペースとして、ジャイアントルームやテラスを提供
- ・「もう一つの居場所」としての心地よい空間とプログラムを提供



12 つくる責任 つかう責任

- ・リサイクル素材など、環境に配慮した資材の利用
- ・廃棄物削減やリサイクル事業の推進



4 質の高い教育をみんなに

- ・学校連携事業を通して、アートに関する知識やスキルを広めるほか、学習プログラムを提供



13 気候変動に具体的な対策を

- ・LED照明の導入や節電など館内の省エネ化



5 ジェンダー平等を実現しよう
・ジェンダーレストトイレの整備



14 海の豊かさを守ろう
・海や山など自然をテーマにしたアート展示による環境保全意識の醸成



6 安全な水とトイレを世界中に



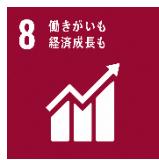
15 陸の豊かさも守ろう
・海や山など自然をテーマにしたアート展示による環境保全意識の醸成



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
・全館 LED 照明や高効率空調設備を導入
・夏季・冬季の空調設定の工夫や節電によるエネルギー消費の抑制



16 平和と公正をすべての人に
・文化の多様性を尊重する展示や文化芸術事業に触れる機会の提供



8 働きがいも経済成長も
・地元アーティストを支援する展示やイベントの実施
・異なる年齢や職業の市民が交流する機会の促進



17 パートナーシップで目標を達成しよう
・個人や団体など共創パートナーとの連携による事業の展開
・青森アートミュージアム 5館連携協議会による事業実施



9 産業と技術革新の基盤をつくろう
・クリエイティブな市民による地域産業の活性化